

# **Feminists are Radical or Moderate?**

Measuring News Bias in the Coverage of ‘Women’s  
Organizations’ in Japan and South Korea

Kazuhiro Terashita

Program-Specific Researcher, Kyoto University/JSPS Postdoctoral Research Fellow

kazuhiroterashita@outlook.jp

2024-11-17

# Introduction

# Introduction

- RQ

- 「女性団体」に関する報道にはどのようなバイアスがあるか

- Motivation

- 女性団体・運動におけるジェンダー政策成立における役割([Annesley and Gains 2010](#))
  - 新聞がどのように報じるかは政策や社会の変化に影響する([Baylor 1996](#))
- 社会運動、市民社会組織の活動の報道傾向にはバイアスがあることが知られている
  - 社会運動のMedia Coverage研究

# Literature Review

- 社会運動のMedia Coverage研究
  - 規模や過激さ、 이슈などによって報道の数が異なる(Rafail, McCarthy, and Sullivan 2019)
    - 新聞記事は社会運動の実態を必ずしも反映していない(Barranco and Wisler 1999; Fillieule 1998)
- 女性団体・運動の報道
  - 他の 이슈より「過激に」「悪者扱い」報道される傾向があるという研究(Lind and Salo 2002)
  - 表面的な活動しか報じられず、対立や主張が報じられないという研究(Ashley and Olson 1998)
  - より複雑だという研究(Mendes 2011a, 2011b; Freeman 2001)

# Literature Review

- 課題

- 多くはフレーミングに注目
  - やや文脈依存的なため、時期によっても結果や操作化自体に差がある
- 「過激に」報じられる場合と「穏健に」報じられる場合の差と実質的な意味
- 英語を基本とした分析
  - 多国間/多言語間の比較はほとんどされていない

- 本研究

- 女性団体・運動の報道のバイアスを長期的に検証する
- 「過激さ」と「穏健さ」を文脈依存的ではない方法で測る
- 日韓の報道を比較することで多言語比較による研究可能性を広げる

# Theory, Data and Methods

# Theory

- 「女性団体」「女性運動」に関する報道のバイアス
  - より「過激に」？
  - むしろ「**穏健な**」活動を報じる可能性もあるのではないか：本研究で注目
    - 「女性」に付随するイメージと過激な運動の排除([Mendes 2011a, 2011b](#))
    - マスメディアにおけるジェンダーバイアス([Davis, Worsnop, and Hand 2022](#); [Rao and Taboada 2021](#))
  - 以上は**メディアやイベントの規模によって異なる**

# Theory

- 社会運動の報道バイアスが生じる要因
  - メディアの特性 (例：conservative vs. progressive)
    - 保守・進歩：保守の方が報道しないなど
    - 新聞社からイベントまでの距離([Rafail, McCarthy, and Sullivan 2019](#))
    - **全国紙と地方紙**：本研究で注目
  - イベントの特徴 (issue significance and topicality)
    - 暴力的なイベント（死傷者が出るなど）
    - **規模の大きなイベント**：本研究で注目



# Theory

- 何が「過激」で「穏健」か？
  - フレームというより**どのような活動がより報道されやすいかに注目**
- 市民社会の機能([Avner 2013](#); [Kollman 1998](#); [Hansmann 1980](#))
  - **アドボカシー**：政策や世論、意識を変えるために政府や社会に対して行われる働きかけ
    - 請願、デモ、署名活動など
  - **サービス供給**：さまざまな有償・無償のサービスを提供する
    - ボランティア、スポーツ活動、保育サービス、コミュニティ活動など
- 新聞報道が以上のどちらの活動を強調しているのかを検証する

# Theory

- 予測

- 報道の傾向は地方紙と全国紙で異なる

- 全国紙は「重要な」イベントのみを報道するためより「過激な」側面を強調（アドボカシー寄りになる）
- 地方紙は地方の運動をより詳細に報道するため「穏健な」活動（サービス）も「過激な」活動（アドボカシー）も報道する

- 大きなイベントがあった際によりアドボカシー寄りになる

- ただし全国紙はより大きく報道が変化するのに対し、地方紙の変化の程度は小さい

# Case

- 日本と韓国
  - ジェンダー格差の深刻さが類似（特に政治経済分野における格差）
  - 女性団体・運動の役割、影響力、構造は大きく異なる([Hasunuma and Shin 2019](#))
    - 日本：頂上団体がほとんど存在せず、有力な運動組織が少ない
    - 韓国：頂上団体がいくつかあり、歴史的に国の政策に影響を及ぼしてきた
- 前提としてのジェンダー格差（社会における不平等）、報道の自由、民主主義体制を満たしつつ、市民社会が全く異なるケースとしての比較
  - 合意法的なアプローチ：市民社会のあり方が異なっても同じ傾向が見られるか？
  - 両国に**類似**する点から一般化を図る

# Data

- Data Sources

- 日本：朝日新聞クロスサーチ、FACTIVA

- 朝日新聞（進歩）とFACTIVAに収録されているすべての地方紙を使用

- 韓国：BIGKinds

- ハンギョレ（進歩）と収録されているすべての地方紙を使用

- 女性団体や運動に関する幅広い記事を捕捉するように検索語を設定

- 日韓の特性に合わせてそれぞれで設定

- 収集期間と収集した記事数

- 日本：2000-2022年の31,272記事

- 韓国：1990-2021年の59,766記事

# Methods

- 下処理

- `quanteda` パッケージを使ってコーパス作成（センテンス単位に分割）
- 日本語はmecab-ipadic-neologd辞書を用いて `gibasa::tokenize` で形態素解析
- 韓国語はmecab-ko-dic辞書を用いて `gibasa::tokenize` で形態素解析
- それぞれ名詞のみを使用
- `marimo` 収録のストップワーズを処理
- 日本語は2文字以上のひらがなカタカナ漢字で構成される単語、韓国語は2文字以上のハングルのみで構成される単語のみを使用
- `quanteda` パッケージを使ってdfm(文書行列)を作成

# Methods

- Latent Semantic Scaling (LSS)
  - 手動でラベル付けされたデータなしでテキストの極性(polarity)を推定([Watanabe 2021](#))
  - Seed wordsに基づいてテキストを一次元上にスケーリング
  - 記事内のすべての名詞のスコアを計測
    - 「女性団体」 周辺の単語のみに限定せず
    - 知りたいのは「記事」の傾向であるため
- Classification
  - “Advocacy”: 抗議活動や政治的な活動を強調
  - “Service”: コミュニティーやボランティア活動を強調

# Methods

- Seed wordsを作成
  - アドボカシーvsサービスに関する既存の辞書はない
  - 既存研究に基づき、アドボカシーに分類される活動（デモ、集会、署名など）とサービスに分類される活動（ボランティア、相談、コミュニティなど）をSeed wordsに設定
  - 日韓両国で出現する単語を設定
    - 韓国語の多義語は削除（請願=청원=清原郡 (청원군)）

# Seed Words(Ja)

| Classification | Seed words                                                                         |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| Advocacy       | “陳情”, “請願”, “要望”, “デモ”, “抗議”, “社会運動”, “政治”, “政策”, “署名”, “選挙”, “意見”, “スト”           |
| Service        | “相談”, “事業”, “コミュニティ”, “地域社会”, “ボランティア”, “助成”, “サービス”, “収益”, “貢献”, “協働”, “協力”, “支援” |



# Seed Words(Ko)

| Classification | Seed words                                                                |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------|
| Advocacy       | “진정”, “요청”, “시위”, “항의”, “운동”, “정치”, “정책”, “서명”, “선거”, “의견”, “파업”          |
| Service        | “상담”, “사업”, “커뮤니티”, “지역”, “봉사”, “조성”, “서비스”, “수익”, “공헌”, “협동”, “협력”, “지원” |

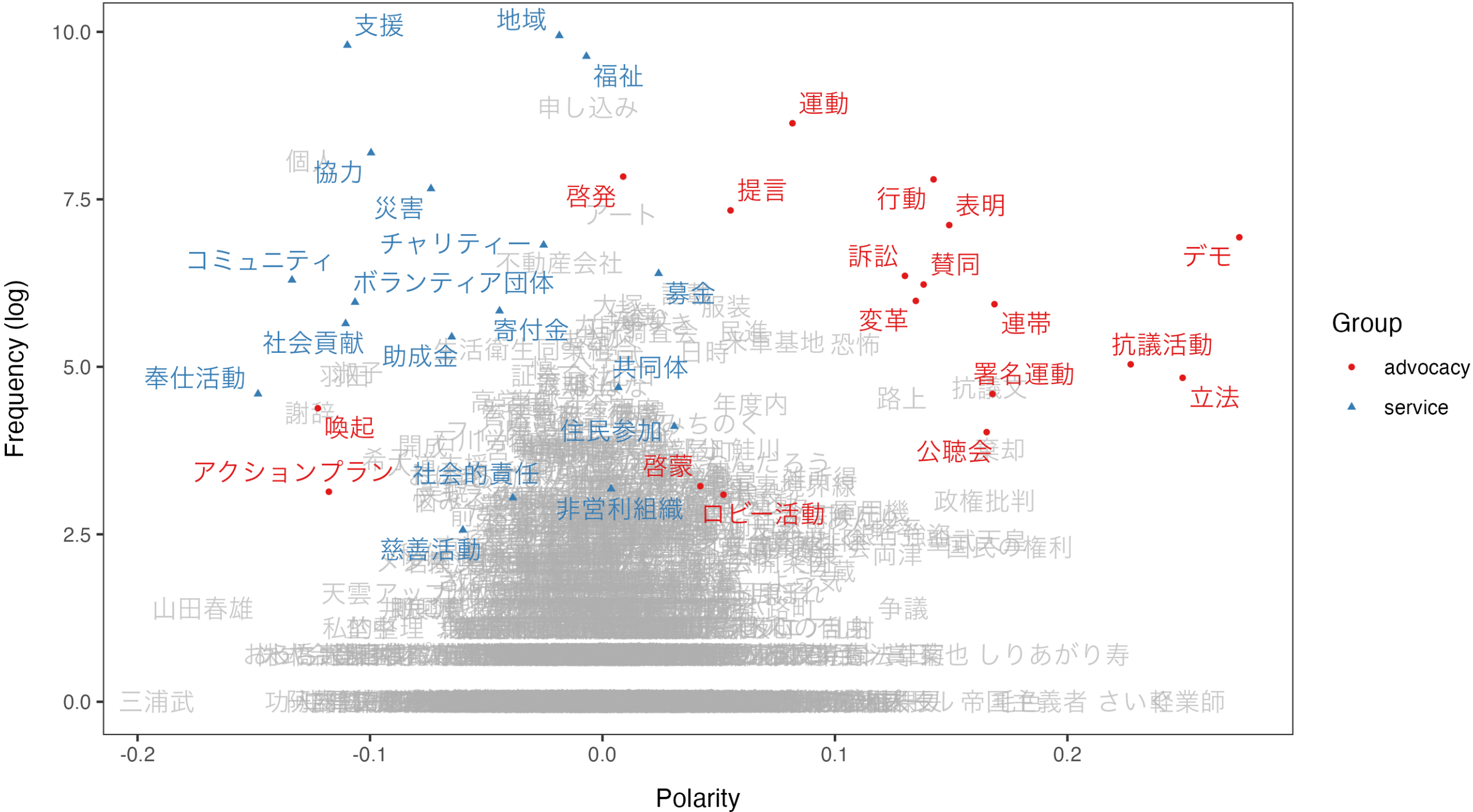
# Methods

- LSSの確認

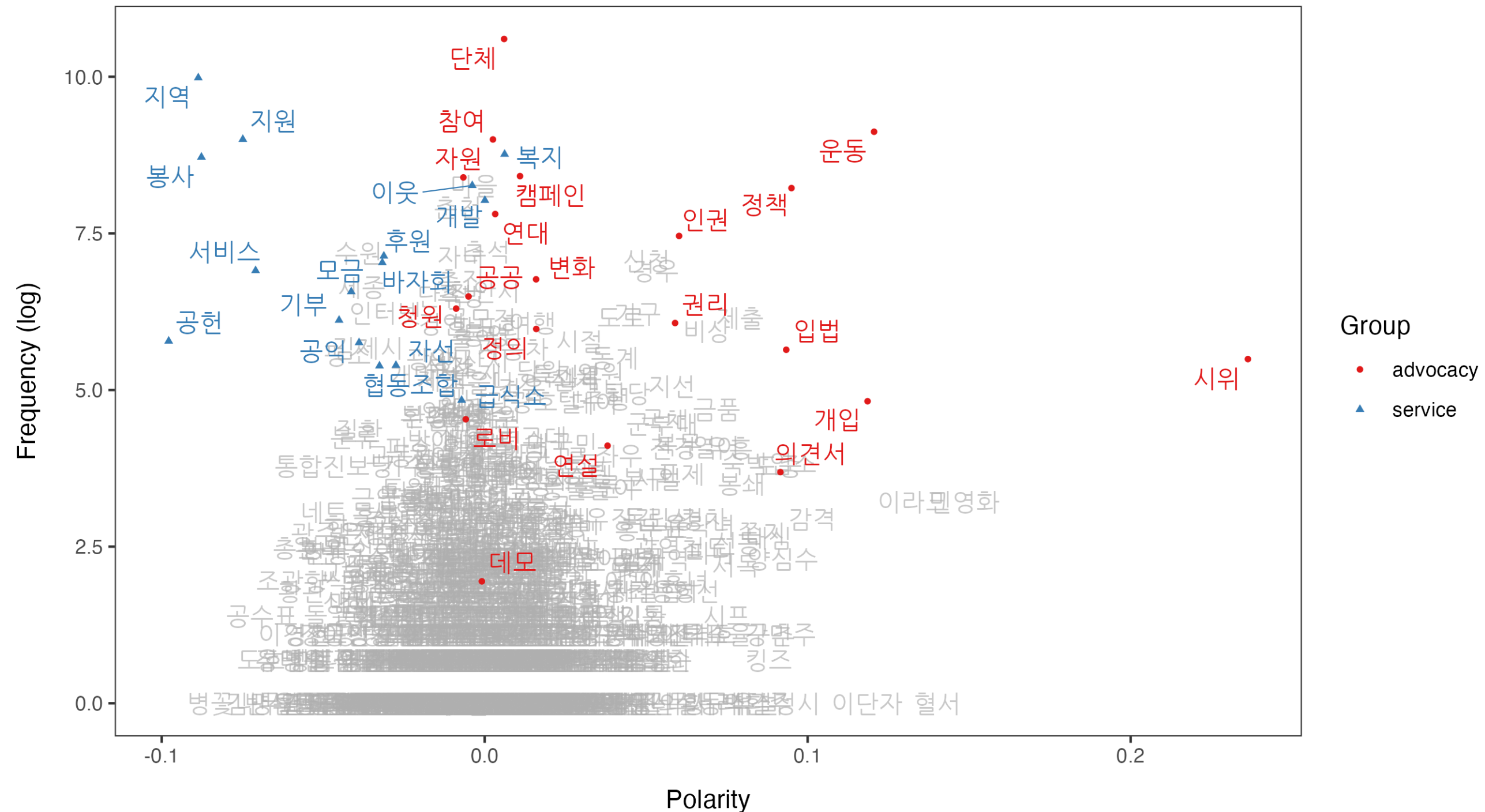
- うまく分類できているを確認するために `textplot_terms` で単語のスコアを確認
  - ChatGPTにアドボカシーの定義を提示した上で「関連する単語」を20個あげてもらい、そのうちコーパスに存在する単語をハイライトする
  - 日韓それぞれで実施
    - Seed wordsは（ほぼ）同じだが、確認用の単語は異なる
    - 日韓で関連する単語は異なると考えられるため

# Results

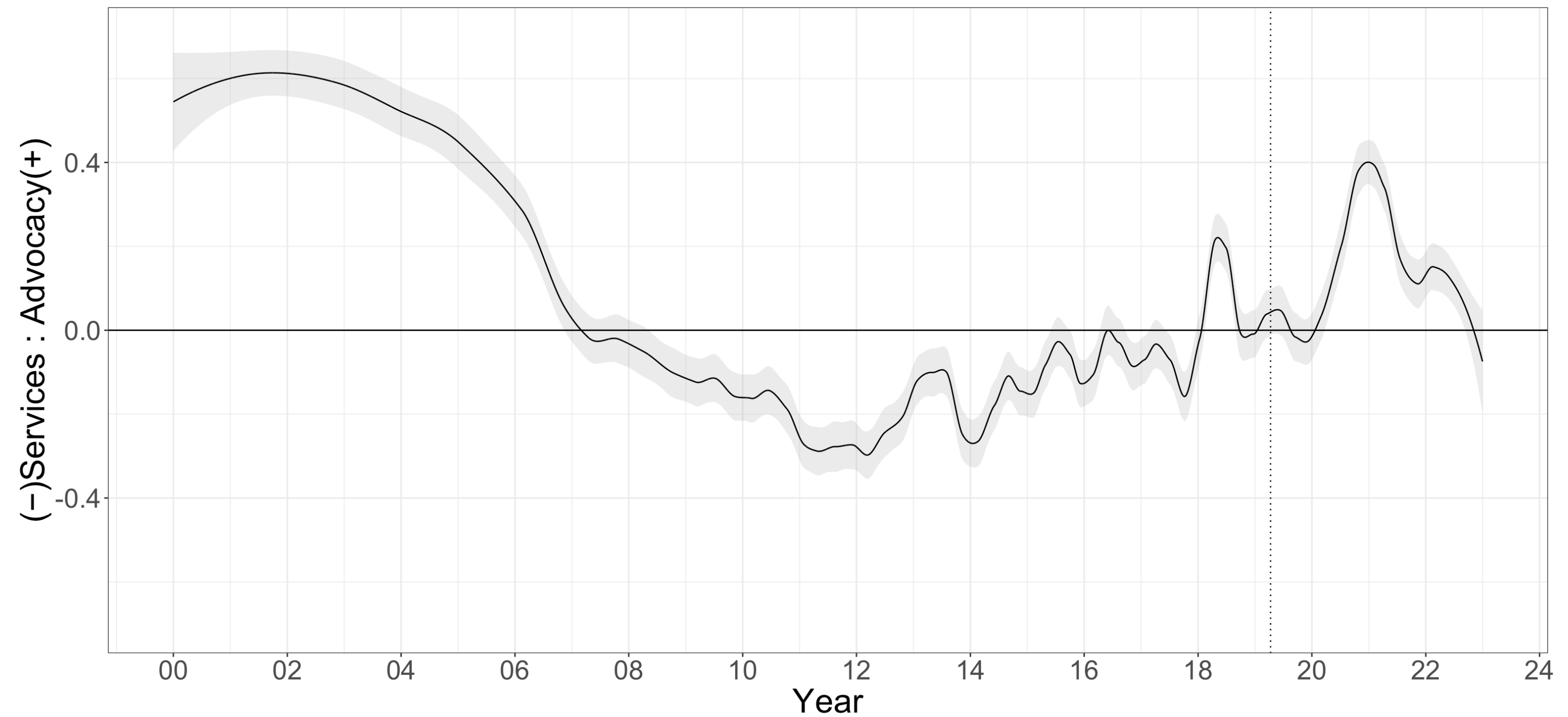
# Score of Each Word Used in the Japanese Analysis



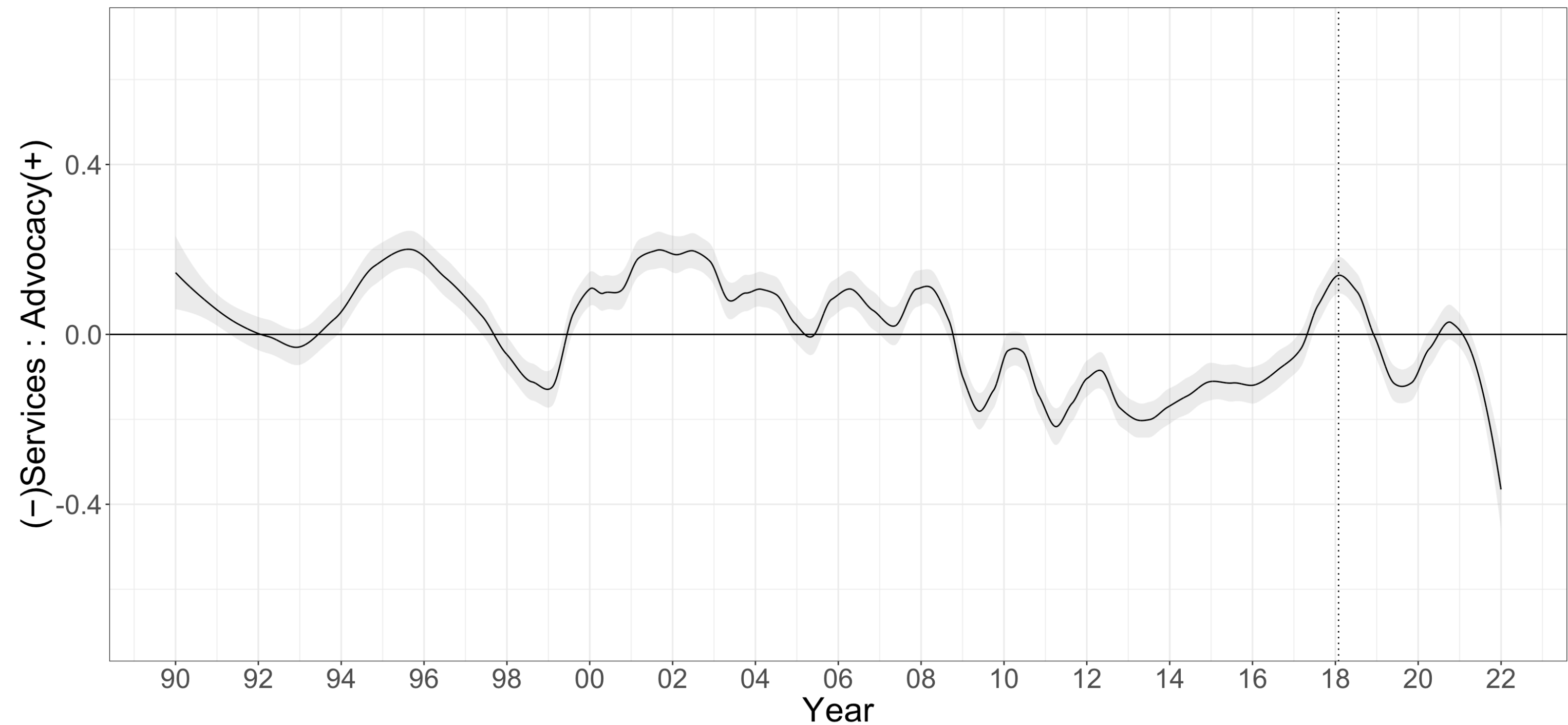
# Score of Each Word Used in the Korean Analysis



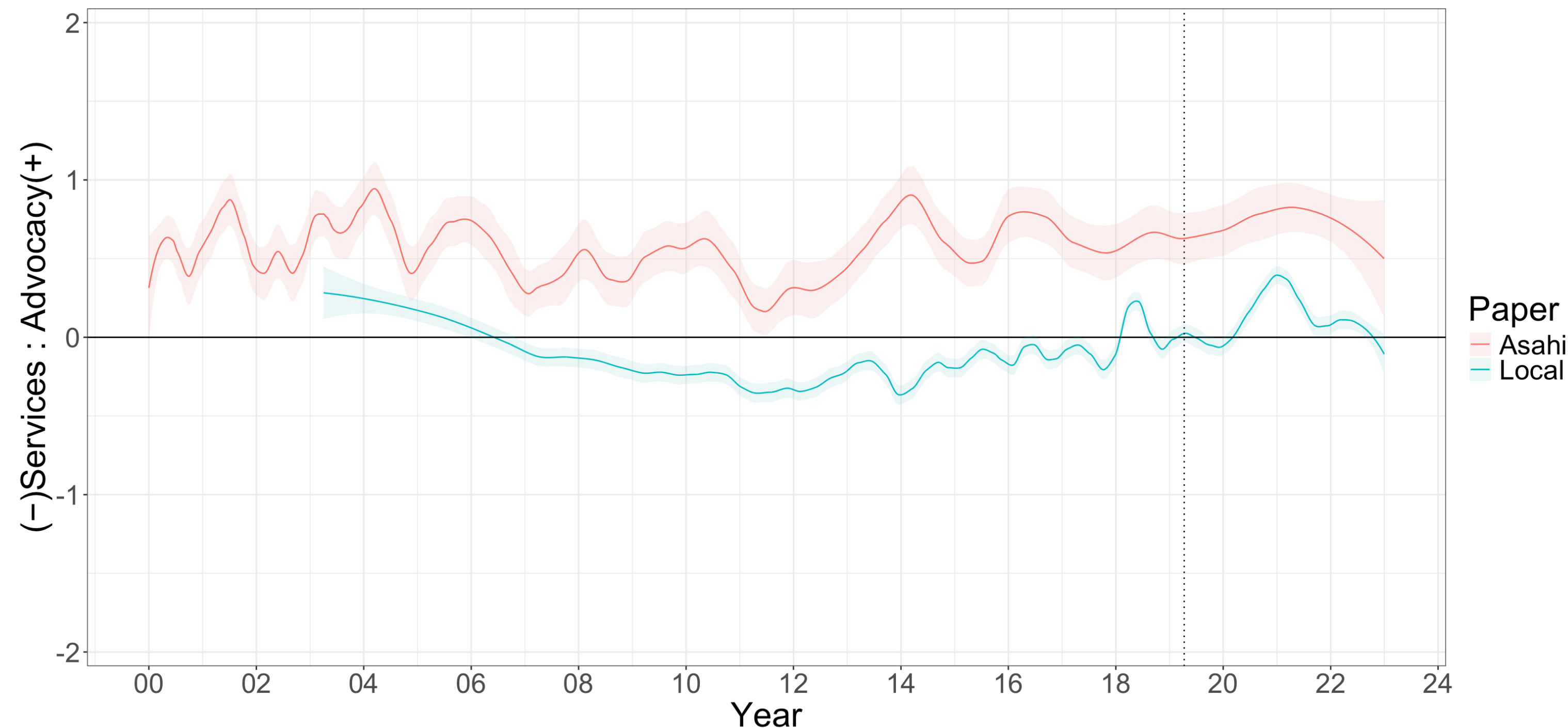
# Advocacy-Service Trends(Japan)



# Advocacy-Service Trends(Korea)

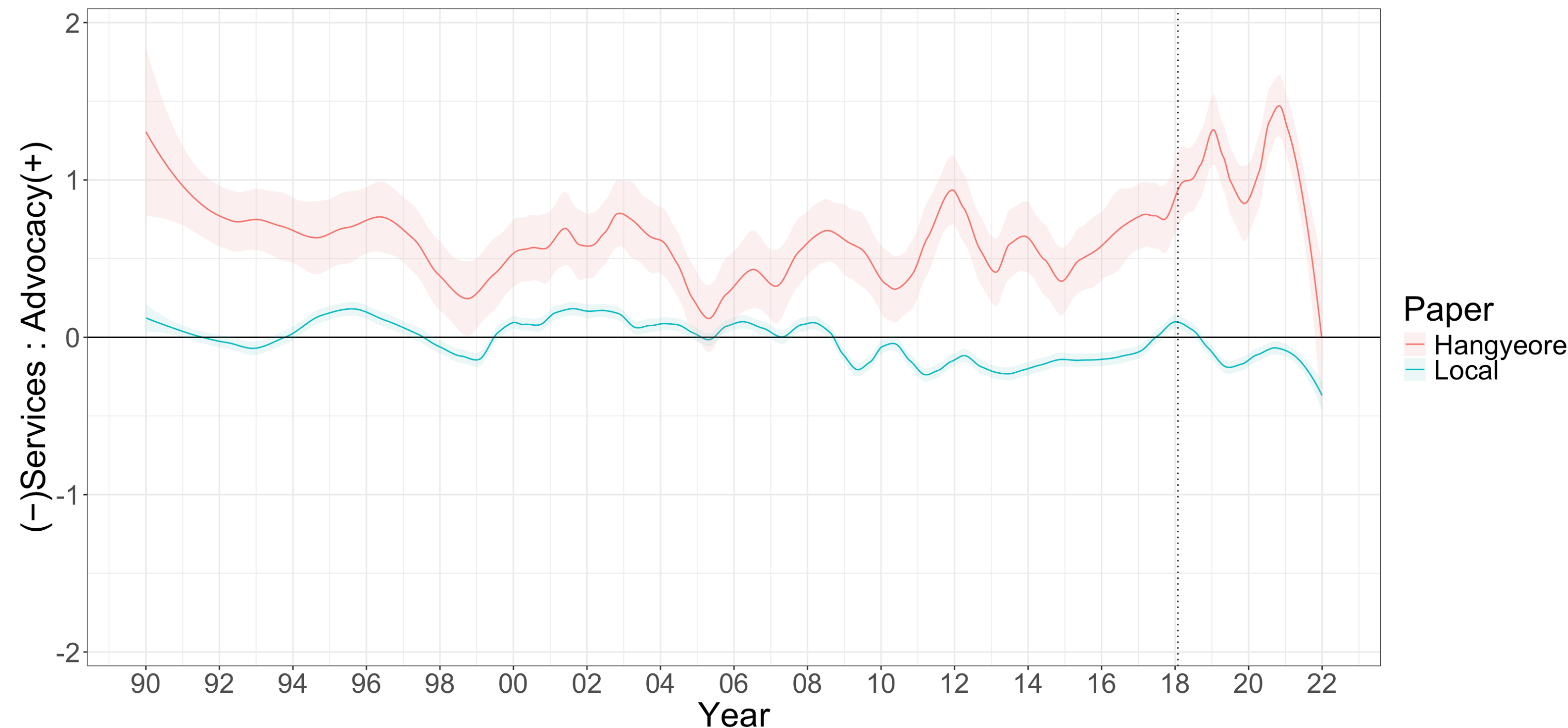


# Differences between General and Local Newspapers(Japan)





# Differences between General and Local Newspapers(Korea)



# Regression Analysis

- #MeTooが始まった前後で報道の傾向に違いがあるかを検討
  - 日本：4件の性犯罪無罪判決をうけて、**2019年4月11日**にフラワーデモが開始
  - 韓国：**2018年1月29日**にある検事が検察での性暴力を告発し、#MeTooのきっかけに
  - 開始約1年前からの記事を用いて分析
- LSS Scoreを結果変数とする回帰分析によって推定
  - 日付(Date)によってクラスター化されたロバスト標準誤差を使用

$$LssScore = B_0 + B_1 Hangyore\_asahi + B_2 AfterMetoo + B_3 Hangyore\_asahi * AfterMetoo + \epsilon$$

# Regression Analysis

|                            | South Korea           | Japan                 |
|----------------------------|-----------------------|-----------------------|
| (Intercept)                | -0.047 (0.031, 0.133) | 0.094 (0.058, 0.107)  |
| Hangyore                   | 0.797 (0.105, <0.001) |                       |
| Asahi                      |                       | 0.622 (0.107, <0.001) |
| After MeToo                | -0.036 (0.035, 0.316) | 0.020 (0.063, 0.748)  |
| × Hangyore                 | 0.372 (0.120, 0.002)  |                       |
| × Asahi                    |                       | -0.019 (0.119, 0.874) |
| Num.Obs.                   | 9659                  | 8884                  |
| R2                         | 0.054                 | 0.015                 |
| R2 Adj.                    | 0.053                 | 0.015                 |
| Note: (Std.Error, p-value) |                       |                       |

# Regression Analysis: Predictions

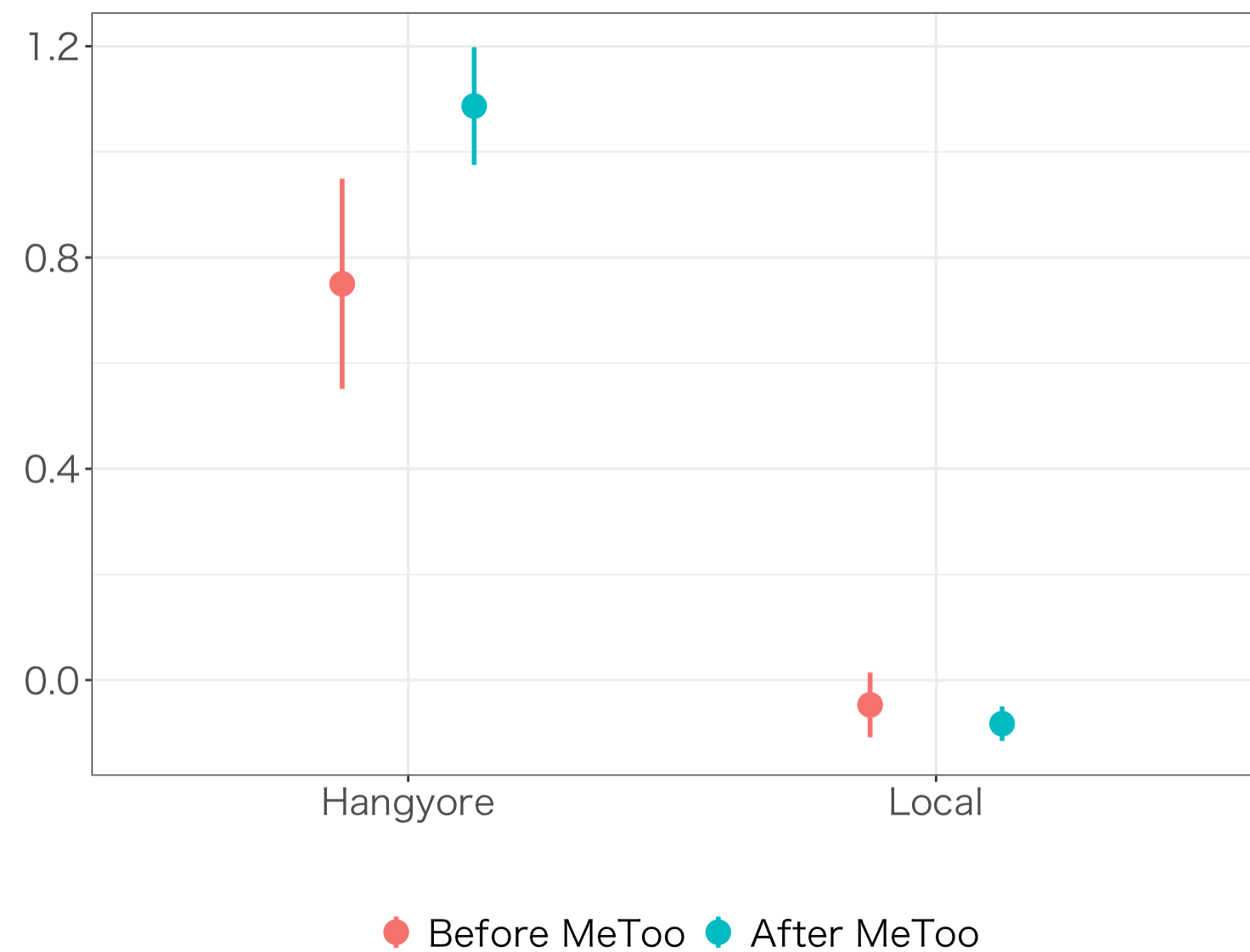


Figure 1: South Korea

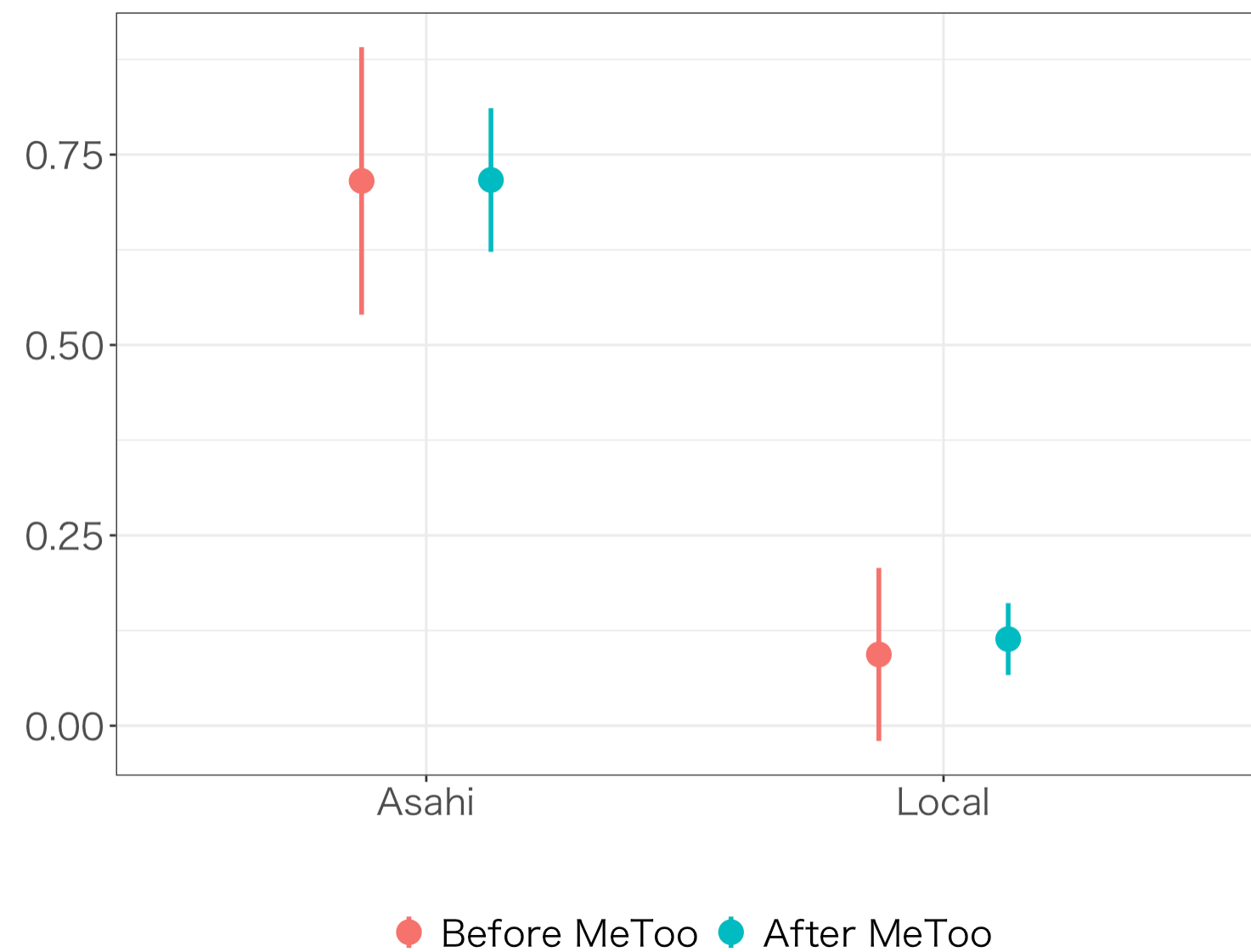


Figure 2: Japan

# Regression Analysis: Marginal Effect

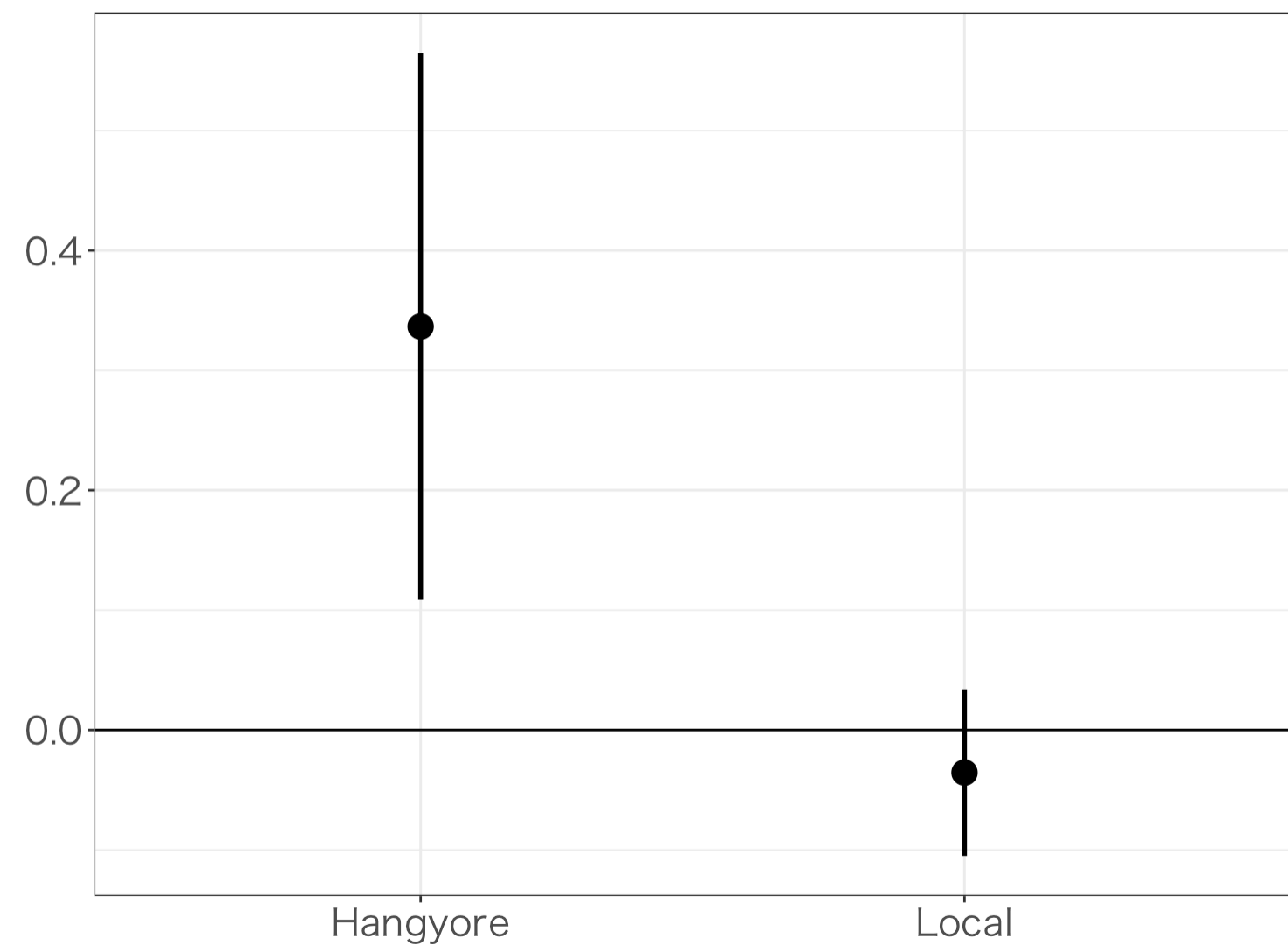


Figure 3: South Korea

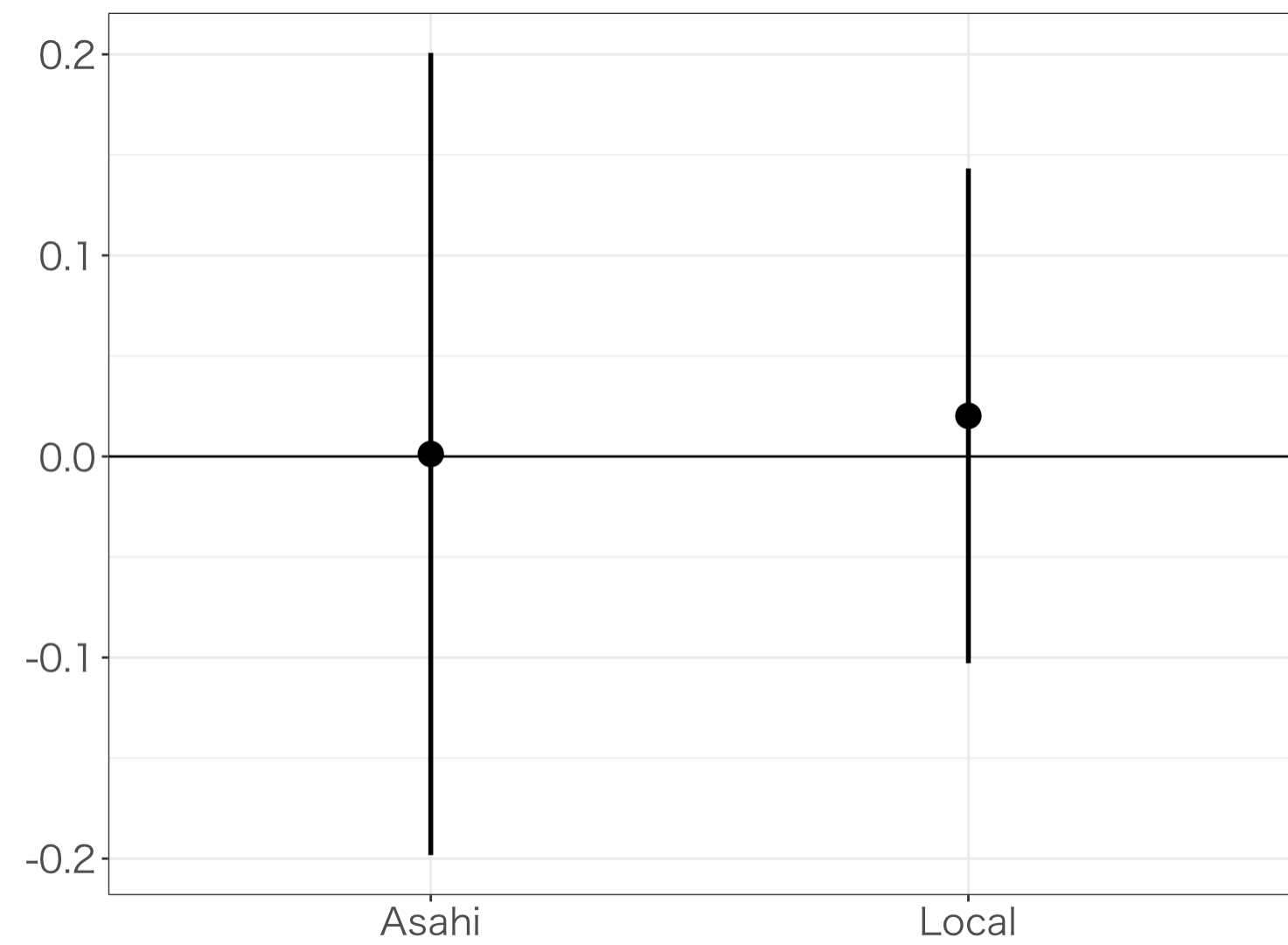


Figure 4: Japan

# Conclusion

# Overall Findings

- 日韓ともに全国紙（進歩）ではアドボカシー（＝「過激な」側面）を強調
  - 地方紙はサービス（＝「穏健な」側面）を強調
  - 結果的に全体としては「穏健な」報道が中心
  - 報道のレベル（全国紙or地方紙）で報道の内容に差がある
- 大きなイベントがあると全国紙を中心によりアドボカシー（＝「過激な」側面）を強調
  - ただし韓国の#MeTooくらいの規模やインパクトがないとそれほど変化しない
  - 日本でも男女共同参画条例の運動期にはアドボカシー寄りの報道が中心
  - 地方紙は全国紙に比べると比較的抑えめ：（実態を考えると）バイアスが生じているのは全国紙かも

# Contribution

- 「過激な」報道をしているのは全国一般紙
  - 進歩的な新聞でさえ女性団体の日常の活動を報じていない
    - 女性運動を把握する際の抗議イベント分析の限界([Bagguley 2010](#))
  - 地方紙の「穏健な」報道
    - 「女性」の象徴的代表を強化し「過激な」運動の有効性を奪う可能性？
    - 地方のアドボカシーだけではない活動も報道している
- 社会運動のメディア・カヴァレッジ研究への貢献
  - 抗議イベント分析で使うなら地方紙の方がバランスが取れているかも(e.g. [Jeon, Kim, and Woo 2022](#); [Ghosh et al. 2022](#))
  - 複数媒体を利用する必要性



# Limitation

- 保守系全国新聞の分析をしていない
- LSSの妥当性：ハンドコーディングなど
- 他のフェミニストイベントの分析